

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172300168		
法人名	株式会社 おあしす		
事業所名	グループホーム おあしす養老		
所在地	岐阜県養老郡養老町京ヶ脇1609-10		
自己評価作成日	平成21年7月15日	評価結果市町村受理日	平成21年10月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172300168&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172300168&amp;SCD=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成21年8月31日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの身体的精神的状況を把握し、安心して暮らせるよう、サポートしています。自由にスリッパのまま外へ出られるよう芝庭を整備し、室内はストレスのかからないように、高い天井・明るい天窓・広い空間・やさしい配色等配慮しています。

利用者一人ひとりの身体的精神的状態を把握し、それに対応した最善のケアを目標に管理者・職員一団となって取り組んでいる。自然光を十分に取り入れた高い天井、天窓、芝庭、広い居間などの空間はゆったり出来る設計に工夫がある。家族の来訪や、親戚宅に出掛ける、手紙をだしたりと、地域の馴染みの人と継続的な交流ができるよう働きかけている。管理者は職員が気持ちよく働けるよう気配りし、互いに何でも隠さず意見が言える風通しのよい関係が出来ている。職員の資格受験にも協力しあい、サービスの質の向上に意欲的なホームである。

#### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の芝庭を開放し町内でラジオ体操やパーベキューを行っている	管理者・職員は理念に立ち戻り、気づきなど日常話し合いながら実践している。外部評価にあわせ自己評価を行い、日ごろのケアを振り返り話し合いを深め共有確認している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩など日常的に行っている	管理者は自治会の集会に出向き、ホームの紹介や交流の機会を作っている。町内清掃・神社祭り・どんと焼きなどに入居者と参加している。餃子づくりを教えてもらったり、戦争体験の話に来てくれる。職員も散歩、買い物時に住民に挨拶を交わし触れ合う努力をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的には行っていない		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自然な形で生かしている	地域の人が無理なく参加できるよう、ホーム行事にあわせ会議を開催している。評価の結果は玄関の棚に開示し誰でも閲覧できる。市町村担当者・包括支援センター職員に参加を呼びかけているが実現に至っていない。	定期的に市町村担当者・包括支援センター職員など幅広いメンバーの参加で開催し、情報提供・共有・連携を図りサービス向上に活かすことが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在はあまり積極的とはいえない	介護保険制度の書類について、スプリンクラー設置・運営の相談など実状を話しに出向いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる	マニュアルに基づき月1回程度話し合い共有認識を図っている。時には家族を交え話し合いをしている。入居者の点滴時には管理者が付き添い見守りしながら拘束防止に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「させる」と言う言葉を排除し、常に主体が入居者であるということを確認し、虐待につながる環境を排除している。また職員がストレスを感じないようにゆったりとした動作を心がけている		

グループホーム おあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はあまり積極的とはいえない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭と書面で行っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者の家族と接点を持ち、要望を聞き入れてサービスに反映させている	ホームより毎月近況報告の手紙を出している。家族の訪問を奨励しホームの日常を見てもらい、意見が言いやすい工夫をしている。また、訪問時には職員から入居者の様子を話し、問いかけながら運営に反映する努力をしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で行っている	管理者は、介護報酬改正など運営について職員に説明している。職員から勤務体制の希望など調整し、双方とも隠さず意見交換しながら運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ストレスのない職場環境を作ることに力を入れており、職員の海外慰安旅行も取り入れた		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	肯定で行っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自然な形で行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者から話しかけられたときは必ず手を止め耳を傾けるようにしている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	希望を聞き入れ介護に反映させている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	リハビリなど行っている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や掃除など手伝ってもらっている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ家族が面会に気安い環境を作っている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散発や買い物など本人の意思を聞き希望を叶えている	入居者の希望にあわせ、手紙や年賀状を書いたり、親戚宅や墓参り、行きつけの理髪店に行っている。地域の人が老人会の祝いの品を持参してくれるなど、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に場の空気をヨミサポートしている		

グループホーム おあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自然な形で行っている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一番大切にしている部分であり、決して施設の都合で行わないようにしている	職員は、家族や本人と向き合い意向を知る努力をしている。夜勤者は、居室でゆっくり話す場面を作り思いや望みを尋ねている。お茶会に先生を招き、赤毛氈を引き抹茶茶碗を整えるなど昔を再現し、楽しめる工夫をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	話を良く聞き、理解に勤めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全て個別に対応し、好みや性格を反映させている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度行っている	3ヶ月に1度計画に関するモニタリングをしている。日ごろの申し送りを大切に、入居者一人ひとりのケアが計画に沿っているか振り返り、本人・家族の意見を取り入れながら、現状に即した介護計画をたてている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日行っている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	喫茶店に言ったり・ドライブに行ったり投票に行ったり機動的に行っている		

グループホーム おあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	講演が隣接しているため、最大限これを利用している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度受診している	医療については、契約時に説明・相談しながら協力医に週1回往診を受けている。入居者の希望に沿い、今までのかかりつけ医の眼科・整形・総合病院等、家族と共に管理者も受診に同行し医師と連携しながら適切に支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度行っている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者・家族・病院と連絡を取りつつ最善策をおこなっている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体や精神状態の変化を家族に報告し、状況を共有するようにしている	入居時に、ホームの方針を説明し、重度化した場合、円滑に移行できるよう日ごろから家族と話し合いを密にしている。常時主治医の助言指示のもと、本人・家族・職員と早期に繰り返し話し合いその都度合意を得ながら、ホームとして出来るだけの支援に取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習を受けている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている	年2回消防署の指導協力を得て避難訓練をしている。夜間想定避難も話し合い、日頃から火の始末・コードをぬくなどがけている。火災報知機は設置予定である。消防署との連携は出来ているが地域の協力体制が十分とはいえない。	職員だけの誘導には限界があることを認識し、地域住民、警察等と連携を図りながら、特に夜間の協力体制の整備に取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している	指導的な言葉にならないよう、また、自尊心を傷つける対応をしないよう日頃から配慮している。夜間モニター設置は弊害も承知しているが、入居者の安全第一を優先した経営者のポリシーに家族も同意している。夜間のみであるが、希望があれば取り外しもできる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や外出など希望を聞き入れている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や体調など、出来るだけ臨機応変に対応できるよう心がけている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めなども行っている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の皮むきなど手伝ってもらっている	好みにあわせパン・ご飯の選択、嫌いなものは代替で対応している。準備から後片付けまで出来ることを一緒にしている。食卓を囲み、静かな軽音楽を聴きながら楽しい食事環境の工夫をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録につけて食事量を把握している、本人にあわせご飯・かゆ・パン等の選択が出来る		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず行っている		

グループホーム おあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの方でも出来るときはトイレで介助するようにしている	入居者一人ひとりの排泄時間を察知し、昼間は出来るだけトイレ誘導をしている。水分補給、牛乳、バナナなどで自然排泄を促す工夫をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物や薬などを使い記録をつけスムーズな排便が出来るようサポートしている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望者は毎日入れるようにしている	一人ひとりの希望があれば毎日・夜間も入浴できる。全介助の入居者も職員三人で個浴入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜の様子も観察し、変化が無いかに注視している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と送電しながら最善の注意を行っている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあわせ外出や会話・食事等行っている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	親戚の家などにも車で訪問している	入居者の希望にあわせ買い物(毛染め液・食べ物)にでかけ、自宅の様子を見に行き、馴染みの理髪店、喫茶店、投票など外出を楽しんでいる。日常は公園へ散歩に出掛け地域の人や子ども達と話ができるよう支援している。	



グループホーム おあしす養老

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る範囲で行っている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に出来るようにしている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に出入りできるバリアフリーの芝庭・外の光をふんだんに取り入れる天窓・調光機能つきの優しい照明・落ち着いた暖炉など常に配慮している	高い天井、天窓で自然光をふんだんに取り入れた居間は優しいバラの絵画を飾り、窓際に一人になれる空間もある。欧風のインテリアで統一され、明るく居心地のよい雰囲気がある。また広い芝庭は四季を通じて緑で、居間から自由に出入りしつろぐことが出来る。使いやすい洗面台の配置にも工夫がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々に椅子を設けている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真などを部屋に置くようにしている	自宅から愛用の安楽椅子を置き、テーブルには家族の写真、朝晩の写経、手紙を書く物など、それぞれの必需品を置く配慮をしている。壁にコーナーを設け趣味の絵画、書道作品や好みのものなど貼る工夫もしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりを備けて切るだけ自由に移動できるように配慮している		